

すべての子どもたちへの心理的、教育的援助のあり方

I 研究の内容

現代の子どもたちを取り巻く環境には、地域での交わりの過疎化、核家族化や子どもの数の減少など、様々な問題がある。友達と遊ぶといっても、同じ空間にはいるが一人ひとりがゲームや漫画に興じ、ひとり遊びとなんら変わらないという状況の中では、人間関係、友人作りも容易ではない。また、本来であれば成長の過程で、自然に社会性を身につけ人とかかわりながら成長していくものであるが、それができないために、学校が居心地よく楽しい場所でなくなっている子どもたちも少なくない。

このような現代社会に生きる子ども達すべてを援助しようとする枠組みが今注目されている。その枠組みでは、子どもに対する援助を、不登校、いじめなどの問題で分類するのではなく、子どもが求める援助の程度に応じて、次のように三段階に整理している。

一次的援助…「すべての子ども」への援助

日頃の教育活動、開発的・予防的な活動

二次的援助… 配慮を要する「一部の子ども」への援助

子どもの苦戦が大きくなり、子どもの発達を妨害することを予防することをめざす

三次的援助… 特別に個別の援助を必要とする「特定の子ども」への援助

一次的・二次的援助も含まれた総合的な援助

そして、本部会ではここ数年、一次的援助についての研究を進めている。それは、すべての子どもたち対象の予防的援助に力を入れることが、問題の顕在化を防ぐことにつながると考えるからである。問題が起きる前から、学校集団づくりや個々の子どものコミュニケーション能力の発達のために機会を設け、意図的に自分作りをうながすとどりとくみや、人間関係の力を身につけるとどりとくみをしていく必要性があり、その方策として、エンカウンター、アサーション、ブリーフセラピーなどを日常的な指導に取り入れてみようと研究を進めてきた。そして、これらを用いた学級指導などの実践を發表し合い、検証に努めている。

さらに今年度は、Q-U アンケートについて学び、Q-U を活かした「すべての子どもたちへの援助のあり方」を探っていくこととした。

II 研究の具体的な内容と方法

1 Q-U を用いての「学級作り」「援助のあり方」について学ぶ

(1) 塩山中学校のエンカウンターへのとどりとくみ

(2) Q-U についての学習会

2 授業研究

Q-Uの結果を分析し、予防的援助を意識した学級活動を行う。

8月29日実施

塩山中学校 佐久間 潤教諭

題材:「ひと夏の経験」

ねらい:夏休みの体験を話し分かち合うことにより、互いに学級の仲間としての親近感を持ち、2学期の学級生活への意欲につなげる。

2月6日実施

塩山北小学校 岩森 真由美教諭

題材:「大切なもだち」

ねらい:クラスの友だちのよさに気づき、友だちを尊重し大切にしようとする態度を育てる。

3 実践報告

- ・Q-Uの結果をうけ、とりくんだ内容について
- ・エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなどの実践報告
- ・ブリーフセラピーについて

III 成果と課題

塩山中学校のとりくみにおいて、エンカウンターの定期的な実施により、Q-Uでのプラス方向への変容が見られた。Q-Uの活かし方を学び、Q-Uの結果を読み取り、適切な方法を取り入れていけば、よりよい学級・学年集団を形成することができることがわかった。さらに、学年や学校全体でとりくむことにより、教職員集団の意識も高まり、子どもたちも変わっていくことを再確認することができた。Q-Uを実施するだけでなく、活用することによって、教職員の学級への理解が深まり、新しいとりくみへの意欲も喚起されるようだ。また、見えていなかった部分に気づくこともあり、それが予防的援助につながっていくのではないだろうか。

本部会では、予防的援助をとりいれた学級活動を仕組み、実施して3年目になった。今回の授業研究は、2学期開始早々の授業ということで、夏休みの体験を共有しあい、2学期の学級生活への意欲につなげようとするものであった。終始、和やかに授業が進み、教師と生徒のつながり、生徒と生徒のつながりが感じられた。学園祭を前にして、よりよい集団作りへの意識付けにもなった。

今年度の研究を通して、私たち教職員もさまざまな知識を得ることができた。得た知識は、私たちの対応の仕方の引き出しとなり、子どもたちへの指導や援助に活かすことが出来るはずである。今後も、さまざまな授業スキルを学び、実践し、知識を確実なものにしていきたい。そして、他の部会の先生方にも利用していただけるような提案ができるようにしていきたい。

また、もう少し多くの人に(特に担任の先生方に)この部会に参加してほしい。

(部長 加藤紀子)